



特定非営利活動法人 女性技術士の会

ニュースレターvol.15



桜の花の後は、足許を彩るシバザクラの花咲く季節となりました。
本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本会の活動内容を中心にお知らせいたします。

第15号では、2013年1月～4月の活動内容、会員からの発信、リレーエッセイ、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。

CONTENS		
活動報告		1 ページ
■ 2013/01/24	コトブキ “ゲンキーズ” 座談会	1 ページ
■ 2013/01/31	土壌分解能力調査	2 ページ
■ 2013/02/02	新年会	2 ページ
■ 2013/03/16	第17回技術サロン (WPETF 活動への協力)	2 ページ
■ 2013/03/29	ポートフォリオ第1回編集委員会	3 ページ
会員からの発信		3 ページ
■ 中西利美さん	働きつづける幸せ	3 ページ
リレーエッセイ		4 ページ
■ 廣瀬由紀さん	私のふるさと：福島	4 ページ
技術サロン参加学生からの感想		5 ページ
■ Y・Oさん	技術サロンに参加して	5 ページ
会員の記事掲載		6 ページ
■ 木村弘子さん	「防災対策としてのトイレ問題を考える」(月刊「技術士」)	6 ページ
理事会・部会運営報告		6 ページ
今後の活動予定		7 ページ
■ 2013/5/18	第6回通常総会	7 ページ
■ 2013/6/15	第18回技術サロン (WPETF 活動への協力)	7 ページ
■ 2013/8/9	女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～	7 ページ
■ 2013/10/17	第7回日韓女性技術士交流会	7 ページ
■ 2013/11/9	サイエンスアゴラ 2013	7 ページ
■ 2013/11/12	日中韓女性科学技術指導者フォーラム	7 ページ
技術士をめざして		8 ページ
■ 堀川真加さん	一步一步	8 ページ

活動報告

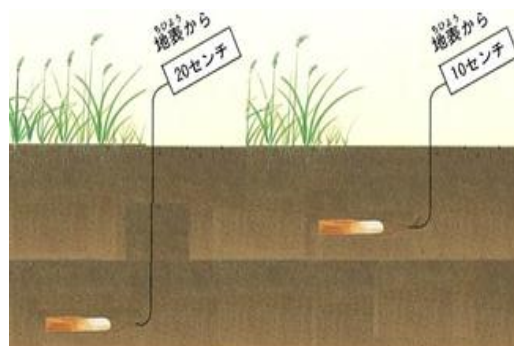
- コトブキ “ゲンキーズ” 座談会
- ◆ 日 時：2013年1月24日(木)
- ◆ 場 所：コトブキ本社
- ◆ 依頼者：(株)コトブキ

- ◆ 目的：コトブキ公園遊具パンフレット“ゲンキーズ”紙面作成
- ◆ 参加者：木村了、吉川、角田、藤井
- ◆ 概要：コトブキより公園遊具のパンフレットに使用するページ作成の協力依頼があった。内容は女性であり技術分野で活躍している本法人会員に座談会形式で「公園作りについて」意見交換をするものであった。座談会は親の視点・市民の視点・技術屋としての視点など多様な意見交換ができ、その模様は近日中に製本されるパンフレットに載る予定である。



■ 土壌分解能力調査

- ◆ 日時：2012年12月15日～2013年1月31日
- ◆ 依頼者：木村弘子氏（本法人会員）
- ◆ 目的：本法人会員の木村弘子氏が長年普及活動をして来た、土壌浄化法が、この度ODA（途上国政府への普及事業）で採択され、ブータンで土壌浄化システム（土壌菌の分解力を使った下水処理システム）の普及活動をするようになった。日本各地で土壌の分解能力を調査する必要がある、協力することになった。
- ◆ 調査方法：図のように庭、畑などにちくわやキュウリ、魚肉ソーセージ、ジャガイモなどを1カ月間埋めて変化の有無を調べる。
- ◆ 調査箇所：日本全国、会員および会員の家族の協力があり62箇所（17名）で実施した。



地中埋め込み図

■ 新年会

- ◆ 日時：2013年2月2日（土）17:00～20:00
- ◆ 場所：ワイン&ダイニング 無々-MuBu-（東京都新宿区）
- ◆ 参加者：正会員 22人 賛助会員 5人
- ◆ 内容：今年は夕方から夜にかけて開催した。懇親会に先立ち、同会場で新メンバーの紹介、各部会の活動報告などを行なった。遠方より駆けつけた会員もあり、盛会であった。



■ 第17回技術サロン（WPETF活動への協力）

- ◆ 日時：2013年3月16日（土）13:30～16:00
- ◆ 場所：公益社団法人 日本技術士会 荳手第2ビル5階 C・D会議室
- ◆ 活動形態：協力
- ◆ 主催：公益社団法人日本技術士会 男女共同参画推進委員会
- ◆ 対象：技術者および技術士を目指す女子学生・女性
- ◆ 参加者：委員会 石田、岩熊、角田、小林、笹尾、増永 ※アンダーライン付記は本法人会員
修習技術者支援実行委員会 坂本恵一氏
一般参加者：9名（女子学生3名、社会人6名）

◆ 経 緯：WPETF の主な活動目的の一つである女性技術者のキャリア形成支援事業の一環として、JABEE 課程と技術士制度の説明および先輩女性技術士との懇談を企画したもの。2008 年 11 月に初回を実施し、同企画で第 17 回目。第 11 回目から、男女共同参画推進委員会主催で実施、本会はこれに協力している。



◆ 目 的：技術者、技術士を目指す女子学生・女性にとって、技術者としてのキャリア形成や技術士取得の一助となるよう、技術士と意見交換する場を提供すること。なお、本会賛助会員の支援により、本会の震災復興支援事業の一環として、福島県的女子学生 2 名を招待した。

◆ 概 要：はじめに技術士及び技術士制度、試験について概要を説明した。次にアイスブレイクにより参加者全員で打ち解けた後に意見交換を行った。受験における勉強法、部門の選択、資格取得のメリット、モチベーションの維持、ライフ・ワークバランス、職場でのコミュニケーションの取り方など、様々な話題に対して活発な意見交換が行われた。できるだけ多くの情報や体験に基づく回答を提示することで、今後も継続的な支援をしていきたい。

■ ポートフォリオ第 1 回編集委員会

◆ 日 時：2013 年 3 月 29 日（金）19：00～21：15

◆ 場 所：NPO 法人地域自然情報ネットワーク事務室

◆ 参加者：吉川、犬走、角田、笹尾、土岐、藤井

◆ 概 要：ポートフォリオ第 1 号「行動する女性技術士たちー理系は楽しい・面白いー2009 年」の第二版として、ポートフォリオ第 2 号を 6 月に発行する予定であり、発行に向けた編集委員会を開催した。販売対象、題名（行動する女性技術士たちー理系は楽しい・面白い vol.2）、書き方、全体構成等について決定した。次回は 5 月 24 日（金）に開催予定。



会員からの発信

■ 中西 利美さん（上下水道部門） 「働きつづける幸せ」

NPO 法人化して 2010 年の総会にぎっくり腰を患った状態で参加して以来初の関わりとなります。（但し日韓技術士会議を除いて）この時のぎっくり腰の症状は、実は腰ではなく内臓であったことが 2010 年 8 月に膵管胆道管合流障害と判明し、出来るだけ早く手術する必要が生じ同 12 月に手術をしました。現在は毎年 12 月に CT 追跡調査を行っていますが今のところ大丈夫です。これにより腰痛現象は陰を潜めました。会員の皆様で腰痛に悩まされている方は、是非、内臓疾患の検査を一度お勧めします。



改めて自己紹介をさせていただきます。1971 年に名古屋に本社のある土木総合建設コンサルタント会社に入社してから定年退職、即再雇用で水道の仕事に深く携わって来た仕事人間です。昨年 8 月から会社の命令で子会社化しようとする岐阜市の小さな会社に技術管理者として席を移し新たな環境に身を投ずる事になりました。これまで勤め続けた会社には、出向という形で週 4 日、残り

は子会社に常勤しています。現在、就職難で職にありつけない人がいる時に多少の後ろめたさを感じますが、使って頂ける幸せを感じています。

さて、初めて会社を変わったことで女性技術者の置かれている状況が、大学を出て勤務した当時と40年以上も経っているにもかかわらず根っこが同じであると改めて感じました。長らく同じ会社で責任ある立場として中枢近くで働いてきた身では遠い事象だったのかもしれませんが、定年退職後の再雇用で、同様の仕事をしていても何とも言えない疎外感から抜け出せない、どう立て直せばいいのか日々悪あがきもがき苦しんでいる今だからこそ感じたのでしょうか。

女性が社会進出を果たせたのは、ヨーロッパでは、第1次世界大戦で男性が戦場に出たため働き手が手薄になったのを補うためであり、日本でも、第2次世界大戦末期に（私の母も旧国鉄の仙台駅改札の仕事に勤務）同様の現象であったと理解しています。しかし、戦後男性が戦場から復員すると、残念ながら速やかに女性は家庭方向にベクトルが動きました。このため、一旦社会進出した女性達の子供達が平和な世界での社会進出を目指すことになったのでしょうか。

私は、大学在学中に父親に事故死され、食べる為には、女性も大学を出てから中断することなく働き続ける必要があることを身をもって体験してきました。社会に出てからは、働き続けるためにはどうすればいいか、第1には、迷信を深く信じる環境で育ったため、土木の世界に携わる関係者が嫌がることは自分の益になっても辞退し、義務を果たし仕事をする権利を取得し続けること、第2には家庭では、仕事を続けられるように家族の健康に人一倍気を遣い家事を上手に手抜きしながら自分の時間を割いて仕事と両立させること、第3に会社以外の行事にも恥ずかしがらずに積極的に参加できる工夫をすることでした。

今度の会社の若い女性技術者には、「必要な資格を取得し、健康を保つ工夫をして逃げずに継続すること、私の様にこの世界でも生き続けられるので応援するから実行してみて！」と言っています。もちろん男性技術者にもね。彼らのひた向きさに触れていると、私も励まされますし、もやもやも少し薄れることがあります。とにかく今後の生き方を苦しみながら模索していきます。最後に韓国の男性技術士からは、日本の女性技術士と韓国の女性技術士の考え方が違うと言われます。お国柄なので何とも言えませんし、個人差もありますが、10年間日韓技術士会議に関わってきて、日本の女性技術士の良さを、私を通して感じて頂けたのが収穫の一つかもしれないと勝手に自負しています。

リレーエッセイ

■ 廣瀬 由紀さん（情報工学部門） 「私のふるさと：福島」

私の出身地は福島県福島市です。大学卒業までを過ごしました。以前は福島出身というと相手はちょっとリアクションに困ったような表情を浮かべたものでした。「福島って東北だけど、青森や秋田ほど田舎じゃないし、特徴がよくわからない」と中途半端なイメージを持っていたのかも知れません。また、「鶴ヶ城行ったことある」とうれしそうに返されても、「福島市は中通りで鶴ヶ城は会津なので、ちょっと違うんだよな。でもそれを説明するのは面倒だし・・・」と今度はこちらが戸惑ったものでした。それが、今では「それは大変ですね」と現在進行形の表現で同情を含んだ目差しを返されるようになりました。



2年前の3月11日に宮城県沖でM9の大きな地震が発生した時、すぐには実家に連絡は取れませんでした。その日のうちに両親と妹一家は住居にも被害がなく、何とか無事であることが確認できました。（福島市の震度は5強でした。）しかしまさか、福島原子力発電所であんな重大な事故が

起こっていたとは夢にも思いませんでした。私の知っている限り、三陸地方とは違って浜通り地方が津波の被害を受けたことは一度もありませんでした。（後で調べてみると 869 年に貞観地震で津波被害がありました。）県内に東京電力の原子力発電所がいくつかあることは勿論知っていましたが、場所は浜通りの南寄りで、福島市からは遠いと思っていました。しかし、事故が発生してみると、放射性物質は地形の関係か気象の関係か北北西方向へ流れ、その方向の地域が広く避難地域になってしまいました。福島市は 70 キロも離れているのに大きな被害を受けてしまったのです。

もともと福島市は自然に恵まれ、農業（特に果樹栽培）が盛んな地域でした。桃・梨・リンゴ・柿・ぶどう・サクランボなど全国有数の生産量とおいしさを誇っていました。しかし、それらは安心して口にすることはできなくなってしまい、子供達も外で遊ぶことはできなくなりました。小さい子のいる家庭は母親と子供が関東や山形へ避難したまま、それまでの普通の生活を送ることはできなくなりました。妹一家（中・高・大学生の子供がいる）は福島在住ですが、あの日以来、地元の農産物は一切口にしなくなってしまったということです。

震災後 1 ヶ月か 2 ヶ月経った時、報道でフクシマという表記を見た時の衝撃は忘れません。故郷のフクシマはヒロシマ・ナガサキあるいはチェルノブイリ・スリーマイルと同様に全世界の人が知る地域になったのか、という思いでした。直接被害を受けてはいませんが、だからといって心の中の喪失感が軽くなるものではありません。そんな思いを抱きながらも、がれき処理のボランティアに行く訳でもなく、仮設住宅に暮らす人々の慰問に行く訳でもなく、ずっとこんな気持ちでどうしたらいいのかわからないまま、今日までを過ごしてきました。私がしたことといえば、盆と正月に実家に帰省することと、せいぜい赤十字と福島県に募金をした程度です。ちょうど 2 年後の 3 月に



この原稿を書く機会をいただき、いつかは向き合わなければと思っていたこのテーマについてやっと書くことができました。以前と同じ福島にはもう二度と戻れませんが、広島や長崎のようにきっと復興できる日は来ます。私は、東京からそう願っていますし、原子力被害から再生した福島県として誇れる日がきっと来ると信じています。そして皆さんも、今日も福島で頑張っている人がたくさんいることを、どうか忘れないでください。

技術サロン参加学生からの感想

■ Y・Oさん（福島大学） 「技術サロンに参加して」

私は技術サロンに参加して本当によかったと思っています。技術士という仕事や資格について学べただけでなく、技術士の方や技術士を目指して頑張っている方たちにお会いしてお話を聞いたことは、とても刺激的でした。技術サロンに参加されていた方は、真剣で、向上心に溢れていました。私は誰かとお話をしただけで、こんなに自分の意識が高まるような経験はしたことがありません。また、技術サロンはとてもアットホームな雰囲気、居心地の良い場がつけられていました。そして、技術士の方たちは、質問などについて丁寧に教えてくださり、技術士を目指している人を本当に応援してくれているのだと感じました。技術士の資格は取得するまでに実務経験が必要ですし、簡単に取れるものではありません。ですが、それだけの努力をして取得する価値は面白いにあると思います。

正直、私はそれまで技術士のことについてあまり詳しく知りませんでした。興味はあるけど難しそうだから、というのが理由で敬遠しがちだったためです。ですが、思い切って技術サロンに参加してみて、技術士になることや技術士の仕事がいかに大変かが改めて分かると同時に、とてもやりがいがあり、社会に貢献できる職業なのだと分かりました。技術士には多くの部門があり、意外な

ところや様々なところで技術士の活躍の場があるのだと感じました。実際に参加されていた方たちも色々な業界の方たちでした。私ももし技術士の資格を取ったら、どの業界に就職したとしても生かすことができるのではないかと、技術士の一次試験に向けた勉強を始めたいと思いました。



そして思っていた以上に女性の技術士が少ないことを知りました。その数少ない女性の技術士の方たちにお会いできたことはとても光栄に思います。お話を聞くと、お忙しいしており、睡眠時間がとても短いことに驚きました。しかし、そんな中でも生き生きとしていて、技術士の仕事に誇りと責任を持っていることが見て分かりました。その姿に感銘を受け、技術士に魅力を感じ、自分もこんな風に仕事がしたい、と強く思いました。自分の仕事に誇りを持って取り組み、その上で社会に貢献する姿は素晴らしいです。

技術サロンに参加していた女性の技術士の方、目指している方、皆さんが仕事に対する意識が高く、私がこれから就職をする上での心構えのようなものを教えていただきました。真剣に取り組み、誇れるような仕事がしたいと強く思いました。そして、自分がどんな風に社会に貢献していきたい



か、考えるきっかけにもなりました。就職した際には、この技術サロンで感じたことを忘れずに、仕事をしていきたいです。中には、家庭をお持ちで子育ても大変な中、仕事や資格の勉強に熱心に取り組んでいらっしゃる方がいて、すごいと思いました。いつか私も家庭を持つことができたら、うまく仕事と両立させていきたいと思います。今回の技術サロンでの出会いは私にとってかけがえのないものとなりました。何かをするために何かを諦めるのではなく、やりたいことはすべて頑張ってやってみせる、という強い気持ちでこれから生きていきたいと思います。

会員の記事掲載

■ 木村 弘子さん 「防災対策としてのトイレ問題を考える」(月刊「技術士」4月号)

月刊「技術士」4月号の「安全・安心シリーズ」に、会員の木村弘子さんの記事「防災対策としてのトイレ問題を考える」が掲載されました。

東日本大震災から2年が経過し、被災地では今なお様々な問題に直面しており、その一つにトイレ問題があります。本稿では、防災対策としてのトイレ問題に、土壌が持つ自然の力を利用した解決策を提案しています。

理事会・部会運営報告

主 体	日 時	議 題
理事会	2月2日(土) 14:00~16:00 4月13日(土) 10:00~13:00	行事報告、会員の入退会報告、各部会報告他 総会準備、各部会活動報告、今年度行事予定他
企画部会	1月31日(木) 19:00~21:00 4月4日(木) 19:00~21:00	ポートフォリオ第2弾 前打合せ、新年会準備 今年度の活動概要、サイエンスアゴラ出展企画について
広報部会	4月11日(木) 19:00~21:00	理事会協議内容の伝達、ニュースレター(vol.15、vol.16)、 広報部会のHP上での発信内容、他
総務部会	日常的な運営	会計および入退会、メールアドレス等変更に関する事務
国際部会	2月13日(水) 19:00~21:00 3月25日(月) 19:00~21:00	会則の改定、役職の人事異動、構成団体の見直し他 会則の再見直し、構成団体再検討、日中韓フォーラム打合せ他

今後の活動予定

第6回通常総会

◆ 日時：2013年5月18日（土） 14:00～

◆ 場所：大田区産業プラザ Pio

◆ 内容：総会・技術発表会（終了後懇親会予定）

総会は、正会員の皆様には、本法人の運営に関しご承認を頂く大切な機会、協力会員及び賛助会員の皆様には、会の活動をご理解いただく良い機会です。また、皆様との交流を深めていただく場です。

技術発表会

・山本敬子氏 演題「途上国の水問題と日本の協力」

・川上紀子氏 演題「日本のエネルギー供給と再生エネルギー導入時の課題」

★正会員の方へ

出欠確認票及び総会資料は準備出来しだい発送致します。

出欠の回答は5月13日（月）までに電子メールにてお願いします。欠席の場合は、欠席の回答とともに、表決権の行使も併せてお送りください。

協力会員、賛助会員の皆様も是非ご参加ください。

第18回技術サロン（WPETF 活動への協力）

◆ 日時：2013年6月15日（土） 13:30～16:00

◆ 場所：公益社団法人日本技術士会 荻手第2ビル5階 C・D 会議室

◆ 対象：技術者及び技術士を目指す女子学生・女性

◆ 定員：15名

◆ 内容：「技術士」資格に関する説明、意見交換会

◆ 参加費：無料

◆ 申込先：廣瀬由紀 wpetf@pej-lady.org

女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～

◆ 日時：8月9日（金）

◆ 場所：国立女性教育会館(NWEC)

◆ 詳細：<http://www.nwec.jp/jp/news/2013/page01.html>

第7回日韓女性技術士交流会

◆ 日時：10月17日（木）

◆ 場所：韓国水原市

サイエンスアゴラ 2013

◆ 日時：11月9日（土）

◆ 場所：お台場地域

日中韓女性科学技術指導者フォーラム

◆ 日時：11月12日（火）

◆ 場所：日本大学（予定）



技術士をめざして

■ 堀川 真加さん（建設部門） 「一步一步」

私は工学部土木工学科を卒業後、建設会社に入社しました。入社して5年間、工事現場でヘルメットと作業服を着て、いわゆる現場監督をしました。自分の計画通りに多くの作業員と資材を動かして構造物を創り上げていく、その魅力に取りつかれて寝る間も惜しんで働きました。その後内勤に異動になり、現在は事業の企画業務に携わっています。また私生活では、結婚し2人の子供にも恵まれました。その結果、仕事のスタイルは現場時代とは大きく変わりました。育児とのバランスを取りながら、というのが今の私の仕事スタイルです。

育児短時間勤務による時間制約で思うように仕事が進まなかったり、出張や外出の伴う業務に携われなかったり、子供の体調不良で不本意に欠勤せざるをえなかったり。自分の仕事能力が落ちたように感じて、正直やるせなく、悔しく、落ち込むときもあります。がむしゃらに仕事していた頃が懐かしい、時間の制約なく仕事している同僚が羨ましい、そう思うこともあります。でもそのたび、「自分で選んだ道、くさっちゃダメだ」と気合いを入れ、仕事へのモチベーションを何とか保ってきました。

技術士に対する憧れは大学生の頃から持っており、学生時代に技術士一次試験を受験しました。実務経験を積みそろそろ二次試験を目指して勉強しようとしていたちょうどその頃、妊娠出産が重なりました。仕事と育児をこなすのに精一杯で、資格の勉強はおろか自分の時間さえ全く取れない生活に、技術士への意欲はどんどん薄れていきました。

ちょうどそんなとき、会社の知人から「女性技術士の会 第16回技術サロン」の案内をもらいました。一度は目指したもののあきらめてしまった技術士への道。いまでは「技術士」と聞いただけである種の拒絶反応を示すほど遠い存在になってしまっており、サロンへ行こうかどうしようか悩みましたが、思い切って参加しました。というのも、知人からの案内に「当社初の女性技術士を目指して下さい」とコメントが添えられていたからです。「そうだ、この機会はいいいチャンスだ」と素直に前向きに捉えることができました。サロンでは技術士の先輩の皆さまがあたたかく迎えて下さり、楽しく歓談することができました。また「技術士を取らなきゃ損よ」「あなたなら取れるわよ」「大丈夫、頑張るって」などの激励の言葉を次々と掛けて頂き、単純な私はすっかりその気になってしまいました。というものの現実はその甘くはなく、子供ふたりを抱えての技術士取得への道は相当厳しいと自覚しています。でも、それでも前を向いていくこと、自分の力を信じること、挑戦し続けること、それが今の私にとって必要なことのように感じるのです。自分をしっかり見つめながら、小さくても一步一步前に進んでいこうと思います。

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



写真 現場で鍛えたおかげで2人の娘（合計25キロ）も持ち上げられます

ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：info@pej-lady.org

2013年第2号 通巻第15号 発行責任者：特定非営利活動法人女性技術士の会 理事長 木村了